



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

国立二小だより

平成28年3月1日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「ありがとう」 幸せの神様を呼ぶ言葉

校長 小林 理人

「先生方はどれほどの時間をかけてくださったのだろうかと思うと感謝の気持ちでいっぱいです。」

「この紙に書ききれないくらい感動しました。」 「再来年や次や次も期待します。」

「学校全体が一丸となっていることがよく分かりました。ありがとうございました。」

これは保護者の皆様からいただいた学芸会のアンケートに書かれていた言葉です。

そして、学校公開の後にいただいたアンケートにも、次のような励ましの言葉がありました。

「特別支援学級、開設される二小、・・・。準備等大変そうですが、先生方ファイトです。」

保護者や地域の皆様に子供たちの活躍や成長を喜んでいただくことや、私たちの仕事に対して励ましや賞賛をいただくことは、私たち教職員にとっての喜びや励みであり、成就感、達成感、やる気につながります。特に、皆様からいただく「ありがとうございました」という感謝の言葉は、私たちが前に向かう勇気と希望を与えてくれる大きな力をもった言葉です。アンケートを通していただいた学校づくりに関する貴重なご意見と、温かい励ましの言葉にあらためて感謝申し上げます。

移動教室で宿泊する施設の方や学校に訪問された方から二小の子供たちの「ありがとうございました。」の挨拶についてお褒めの言葉をいただく機会が多くあります。二小の子供たちは「語先後礼」（ごせんごれい）が身に付いています。「ありがとうございました。」という「感謝」の気持ちを言葉で伝え、次に丁寧にお辞儀をする「語先後礼」の挨拶によって、子供たちの「感謝」の気持ちが伝わり、喜んでいただいているようです。

また、路線バス内で本校の児童が降車時に運転手さんに対して「ありがとうございました。」と言って降りる場面を何度か目にすることがあります。校外学習等でバスを利用したときの経験が生かされているようです。

「ありがとうございました。」の言葉はバスの車内の雰囲気をも温かく変える力があります。私もバスを降りるときには「ありがとうございました。」の一言を心がけています。

3月は『感謝』という言葉を意識して生活をします。「感」は、自分の成長を応援してくれた人、支えてくれた人に対して思いをもつことです。そして、「謝」はその思いを言葉にしたり行動に表したりすることです。子供たちだけではなく、私たち教職員も学校を支えてくださった地域や保護者の皆様への『感謝』を意識し、1年間のまとめにふさわしい月にしていきます。

ありがとうは魔法の言葉 唱えると幸せの神様がやってくる

相田みつを